武蔵
MUSASHI

東京都立
武蔵高等学校
同窓会会報

60
2025.5.20



「モンテルキの風」
井上 耐子さん(16回F組)の作品
(現姓 三浦)

Topics

今年の総会開催情報

日時 2025年6月29日(日)
場所「武蔵野スイングホール」
レインボーサロン11F
13時～同窓会 総会
15時～17時 懇親会／ホームカミングデイ(32回・33回生)
*今年はアトラクションはありません。

ホームカミングディへの参加呼びかけ

32回生・33回生 幹事より

ホームカミングデー お便りのコーナー

37回生からのお便り／57回生からのお便り

母校 東京都立武蔵高等学校・附属中学校の今！

各部活動代表生徒から同窓会へお礼の言葉
2024年度の在校生の活躍
武蔵高等学校 生物部より
武蔵同窓生が経営に携わる企業へ――
中学2年生による職場体験学習の感想

同窓生からのお便り

同期会・クラス会・部活OBOG会を行いました／「お元気ですか」
昨日・今日・近頃の私／恩師からのお便り／フレッシュOB・OGへのインタビュー
大菩薩ヒュッテ「大菩薩ジオツアー」に参加して」／山登り参加者皆さまの声

事務局便り 等

2024年度決算報告書及2025年度予算(案)
大学等合格状況／高校・中学 教員異動者名簿
同窓生による協賛広告ページ／会費納入方法等のご案内
別紙「同窓会創立80周年記念事業」のお知らせ／事務局だより

東京都立
武蔵高等学校同窓会
東京都立武蔵高等学校 同窓会事務所
〒180-0022 武蔵野市境1-3-4 エーブル武蔵境203
Tel & Fax 0422-27-7571

会長挨拶

土岐善麿作詞 母校都立武蔵高校の校歌は日本一だと思いませんか。



2026年は同窓会創立80周年です。

同窓会会長
土屋 正忠
12回 C組
（1959年度卒）

青春の庭、母校都立武蔵高校を思い出すたびによみがえるのは校歌です。

土岐善麿作詞、長谷川良夫作曲の校歌は「林を出でて林に入り」から始まり、後半部分で、1番は「真理を真理を求めゆくとき」2番は「正義を正義をかかげゆくとき」3番は「社会を社会をにないゆくとき」との繰り返しがあります。

真理・正義・社会を担うというリフレインは、人格形成期の多感な青春時代に欠くことの出来ない目標を呈示しています。

明解な文句、明るく軽快な曲調、同窓会の皆さん〝日本一の校歌〟だと思いませんか？

作詞家の土岐善麿さんは明治18年生まれの国文学者で石川啄木や若山牧水と親交があり、啄木の死後に業績を評価し、啄木作品集を出版しベストセラーになったとのこと。戦後は各校の校歌を積極的に引き受け次々と創作し、その数は280曲に及ぶと言います。土岐善麿さんは詩のあり方を、読んでよく、声に出して素晴らしいということを心がけて作詞したといいます。また、武蔵野をこよなく愛し、各地を散策し、とりわけ日野市の百草園周辺が気に入り、何回も訪れたとのことです。

母校武蔵の周辺も終戦直後や昭和30年代は、武蔵野の自然林が残り「林を出でて林に入り」の風情でした。ちなみに私は昭和32年入学ですが、その頃は母校の校門前までは車の入る広いジャリ道でしたが、その先は野道になっていて玉川上水まで細々とした樹林が続いていました。桜堤団地ができる直前の景色です。母校の前身の東京府立第13高等女学校時代(昭和15(1940)年創立)の頃は、もっと武蔵野の林が連なっていたに違いありません。

土岐善麿さんは明治・大正・昭和を代表する詩人であり、国文学者の第一者ですが〝校歌〟を作るということは、その地に対する郷土愛と若者に対する眼差しが温かくなければ良い校歌は出来ません。土岐さんは校歌を依頼されると、その地を訪れて周辺の土地を散策し、街がらを見て、それを念頭に作詞したといいます。

同窓生共通一言インタビューです。お題はこちら♪

在校時代のわたしのマイブーム・思い出

68年前、ラグビー同好会を作り旧男子校の立川高校と試合をしました。旧女子高から共学になって7年、先生が驚いたのが、印象に残っています

このように武蔵野を愛した一流の作詞家に出会ったことは母校にとって重大な出来事であり、この庭に学び、青春を過ごした私たちにとって計り知れない勇気を与えています。

来年令和8年(2026年)は、同窓会創立80周年を迎えます。青春時代を過ごした母校を振り返り、現役の後輩たちの成長と飛躍を期待いたしましょう。

(たましん地域文化財団発行「多摩のあゆみ」第193号 藤井真理子氏記事を参照)

昨年の同窓会総会/アトラクションの報告

2024年度
（令和6年度）





昨年の同窓会総会は一昨年に続き、母校(都立武蔵高等学校/中学校)にて2024年6月15日(土)に開催されました。

総会には卒業生(運営委員含む)及びその関係者合わせて60名余りが参加、2023年度の事業報告・決算報告、2024年度の事業計画・予算案が承認されました。

総会後のアトラクションは日本国際賞(JapanPrize)を2023年に受賞しました萩本和男(25回I組)氏による講演「光ファイバ通信の発展に寄与：導きor偶然or幸運or怒り」が行われました。

そのあと一昨年同様校舎見学会を希望される卒業生はその場に残り、合唱部員の先導により校舎案内をしていただきました。今回も学校側から多大な協力を頂き誠に有難うございました。

さて今年はパンデミック以前の総会の形、外部会場で懇親会を含めた同窓会総会に戻してゆきたいと思っています。

本年の同窓会総会・開催のお知らせ

2025年度（令和7年度）

今年の同窓会総会は「武蔵野スイングホール」にて開催決定!!

今年の同窓会総会は 2025年6月29日（日）、武蔵野スイングホールにて開催！会場は2Fではなく**初めからレインボーサロン(11F)**の方で行いますので間違わないようにご来場ください。

同窓会総会後、同じ会場で「懇親会＆ホームカミングデイ」を行うため、準備時間等の都合により今回アトラクションはスキップさせていただくことになりました。

今年より再開となる「懇親会＆ホームカミングデイ」は、過去5年間のコロナパンデミックにより中止となっていました32回生からが対象です、そのため今回再開するホームカミングでは向こう3年間2学年ずつ行う予定です、そして今年の対象は32回生と33回生となります。

日時 2025年（令和7年）6月29日（日）

受付開始 12:30　開会 13:00

懇親会 15:00-17:00

（懇親会費 3,000円/軽食・飲み物）

※懇親会はパーティー形式です。全ての同窓生が参加できます。

※同会場で、ホームカミングデイ(32回・33回生)も同時開催致します。

会場 武蔵野スイングホール

レインボーサロン11F

東京都武蔵野市境2-14-1（最寄り:JR武蔵境駅北口 徒歩2分）

※今年のアトラクションは懇親会＆ホームカミングデイを行う関係によりスキップさせていただきます。

32回・33回生 幹事より、ホームカミングディへの参加呼びかけ

2025年度（令和7年度）

ホームカミングデイに向けての抱負！

新堀 美登里（旧姓 則松）

32回 I組（1979年度卒）

ChatGPTに「ホームカミングデイとは何ですか」ときいてみたところ「主にアメリカの高校や大学で行われる伝統的なイベント。卒業生が母校に戻り在校生と交流する日」と教えてくれました。なるほど。そんな素晴らしい日なのね。

確かに武蔵って、アメリカの高校並みに自由だったかも。ファッションもアルバイトもバイク通学も恋愛もし放題。あまりにも自由過ぎたので、そのまま自由過ぎる大人になってあちこちではみ出して困ったのは私だけではないはずだ。

ともあれ統合や廃校になることもなく、愛しの母校が当時と同じ場所に存在することに感謝しつつ、卒業後の長い長い年月、それぞれの環境で活躍してこられた同期の皆さんと交流できる日を感慨深く迎えたいと思います。

石川 三枝子

33回 D組（1980年度卒）

これまで卒業四十年となる代がホームカミングデーに集うことになっていましたが、私達の代は2021年に開催する予定だったところ、ちょうどコロナ禍と重なり行うことができませんでした。

この度、一つ上の代の先輩方と合同での開催の運びとなり、より多くの方々との再会が楽しみとなりました。

学年の中では還暦の機会にクラス会を設けたところもありますが卒業して四十五年にこうしてホームカミングデーを再度設定していただき、旧交を深める機会を与えていただけることを大変ありがたく思います。

今では駅から高校までの道のりは発展目覚ましいものですが友達と食事をした懐かしい思い出も甦り、教習所や角の酒屋さんの十代で見た景色と変わらない風景に安心感も覚えます。

人生の転機に差し掛かった時に未来を掴んだ思い出の地を思い出す一日となりますことを願っております。

ようこそ同窓会へ!新卒業生（77回生）新幹事の皆さんです

2024年度卒（令和6年度卒）

77回生 新幹事

A組 栗野 快晴　田賀谷 温志

B組 赤塚 陽太　大鹿 乃愛

C組 石渡 友悠　加藤 遼希

母校 東京都立武蔵高等学校・附属中学校の今!

校長先生よりメッセージ

東京都立武蔵高等学校･附属中学校 統括校長 **堀江 敏彦**



堀江敏彦 校長 近影

都立武蔵高等学校･附属中学校長として2年目を迎える堀江敏彦です。昨今、進学先として都立高校を選択しない傾向にある中で、都立中学でも同じような状況が進み、本校の応募倍率も2.4倍でした。一方、卒業生112名の進学状況は、国公立大学合格者が56名、難関私立大学(早慶上智)合格者はのべ142名、難関国立及び国公立医学部医学科合格者は20名と健闘してくれました。また、東京サイエンスハイスクール指定校としては、理数コンテスト等へ多くの生徒が参加しました。国際理解教育に関しては、英語の各種コンテストへの参加やオーストラリア語学研修の実施など多くの取組を進めることができました。

今年度も「武蔵高等学校」の伝統を引き継ぎながらも、教育活動を一層充実させ、さらなる発展のために全力を尽くしてまいります。同窓会の皆さま方には、引き続き、本校の教育活動を支えていただくために、大胆でかつきめ細やかな御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

各部活動代表生徒からの同窓会へのお礼の言葉

東京都立武蔵高等学校
生活指導部 部活動担当

この度は、同窓会の皆様より支援金をいただき、11の部活動が無事に夏季合宿を終えることができましたことを、ご報告させていただきます。ご支援誠にありがとうございました。ご支援いただいた 部活動の代表生徒より、同窓会の皆様へお礼のメッセージを送らせていただきます。

\\この度は、部活動へのご支援誠にありがとうございます!//

陸上競技部

貴会のご協力のおかげで夏季合宿を無事に行うことができ、部員各々が大きく成長した4日間となりました。これからも陸上競技部の活動へのご協力をよろしくお願いいたします。【秋の戦績】東京都高等学校新人大会(都大会)女子やり投げ決勝進出(第10位) 女子 4x400mリレー（総合11位）

サッカー部

私たちの合宿に対するご支援を賜り誠にありがとうございました。皆様のおかげで有意義な時間を過ごすことができました。今回の合宿で得たことを活かし、今後の大会へ向けてさらに精進して参ります。

男子硬式テニス部 女子硬式テニス部

同窓会の皆様からの支援金のおかげで無事合宿を終えることができました。本当にありがとうございます。合宿で学んだことを忘れず、これからも目標に向かって部員一丸となって精進してまいります。

剣道部

合宿で必要な備品や飲み物を購入するためのお金を支援していただいたことで、危険な暑さの中でも無事に活動することができました。ありがとうございました。合宿で得たことを今後の活動にも活かしていきます。

吹奏楽部

吹奏楽部の夏季合宿に際しまして、お心遣いをいただきありがとうございました。おかげさまで、コンクールに向けて充実した合宿となりました。部員一同、練習に励みますので今後とも温かなご支援をお願いいたします。

生物部

合宿のご支援ありがとうございました。今年の合宿も、自然と存分にふれ合い自然との共存の大切さを、身をもって感じることのできた貴重な体験でした。今回の活動をまとめ、考察し、今後の活動に活かしてまいります。

山岳部

同窓会からのご支援のおかげで、合宿をより安全に、活動を豊かに行うことができました。これからも山岳部の活動を有意義にできるよう邁進していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

ラグビー部

無事に合宿を終えることができました。合同チームとしての参加でしたが、久しぶりの菅平で、とても濃密な4日間でした。9月の花園予選では、まずは1勝を勝ち取りたいです。

バドミントン部

支援金のおかげで、バドミントン部は合宿という貴重な機会を個人に加え、部全体として最大限成長に活かすことができました。これからも引き続きご支援よろしくお願いします。

女子バスケットボール部

充実した合宿を経験することができ、夏季大会では目標の3回戦進出は叶いませんでしたが、合宿での成果を感じられた試合ができました。今後も応援のほどよろしくお願いします。

ホームカミングデー お便りコーナー

37回生のお便り(1984年度卒)

中川 雅之 37回 B組



武蔵高校は制服もなく「各自が好きなことに"チャレンジ"してみなさい」と自主性を育ててくれる校風であったと感じています。私の場合はバイクや車に関心を持ち大学卒業後は自動車会社へ入社、以来インダストリアルエンジニアとしてモノづくりを36年間楽しんでいます。会社では昨今の若手に対して「自分の関心のあることに"チャレンジ"する」ことを推奨していますが、我々は武蔵にて高校の頃からそのような良い場を与えてもらえていたのだとあらためて感謝しています。

毎年担任の下田先生を含めた10人以上のメンバーが集まり楽しい時間を過ごしています。今年は40年目の同窓会ですが、あと何十年続けられるかチャレンジします♪

田口 一朗 37回 B組



「記問之學、不足以爲人師(記憶して教えるだけの学問では、人の先生となるには不十分だ)」。この言葉を見るたび、国語の遠藤誠治先生を思い出します。代返や脱走に苦笑しつつ「授業より大事なものはある」と明言され、ことばとは、文学とは、人生とは何かを真剣に語られ、倦むことがない。梶井基次郎やドストエフスキーの話をうかがう内に、ぼくは文転を決意しました。当時、古典の成績は2。しかしそんなことはどうでもいいのです。「學莫先於立志」、学問は志を立てることから始まります。

浪人落第を繰り返し、現在東大で漢文学を教えています。知識より大切な何かを、ぼくは伝えられているのか。夕陽に向かって合掌する遠藤先生の後姿はとても越えられそうにありません。

在校時代のわたしのマイブーム・思い出
マルゴ商店の瓶入りチェリオ

住田 京子 (旧姓 田邊) 37回 B組

在校時代のわたしのマイブーム・思い出
武蔵境駅近くの喫茶「サントス」のパフェ

教職に就いて36年が経ちました。教育系の大学に進もうと決めた高校時代。その理由は、「好きな音楽を続けられそうだから。」「毎日同じ日がない、変化に富んだ仕事だと思ったから。」が主でした。でも、実際に現場に立ってみると、自分の考えの甘さを痛感しました。最初からうまくいくとは思ってはいなかったものの、空回りする自分、無力な自分を思い知りました。そんな私を支えてくれたのは子どもたちの笑顔。「できた！」「分かった！」「楽しい！」と言う一瞬を共有し、そこでしか見られない笑顔を見られる喜びは何ものにも代えがたいです。

今日も子ども達に元気をもらい、常に新たな発見のある教室にいます。あとどれくらい続けられるかは分かりませんが、一日一日を大切にしていきたいと思っています。

北村 悦世 (旧姓 山本) 37回 C組



「花はいけたら人になる」いけばな草月流初代家元の言葉に心を動かされ、草月流いけばなの活動をしています。

早大卒業後マスメディアで働き夫の転勤に伴い離職。その後育児の傍ら草月に入門。自由な発想を重んじる草月は個性尊重の武蔵で過ごした私には心地良く、造形の楽しさと共に社会的意義も感じます。毎年秋には国営昭和記念公園で倒木を使用したインスタレーションを制作し、エコアートを発信。「今、ここで、何をどういけるか？」自問自答しながらいけばなの創造性を追求しています。

阿部 俊英 37回 C組



「FIREKING CAFE」

2000年、32歳で代々木上原に「FIREKING CAFE」を開業しました。20代の頃から何か自分ならではの表現を現世に発表してみたいという思いがあり、それが飲食店という形で実現しました。この店はそれまで私が興味があったアート、料理、音楽、インテリアなどを全て集めて表現したものとなりました。幸運なことに月間1万人以上が来店する繁盛店となり、今年で25周年をむかえます。

自分で考え表現したものが長期に渡って愛され利用して頂けることは、この上なく幸せです。これからもできうる限り継続して恩返ししていきたいと思っております。

草深 寿子 37回 C組



幼少の頃、将来の夢はピアノの先生でした。

願いが叶うと心は次へ向かいます。今は音楽をただ楽しみたいです。音は常に生活の中に存在し、リズムも持ち合わせています。身近な音に耳を傾けて体と心で感じると今度はその感動を表現したくなります。

最近は色々な楽器編成で編曲をしてアンサンブル演奏をすることが楽しいです！いつか武蔵の卒業生の方々と世代を超えて音を合わせてみたいです。HPやInstagramもご覧ください。

富田 真由 (旧姓 野口) 37回 F組



在校時代のわたしのマイブーム・思い出
売れる前のとんねるず推し活

認知症の母と義父母の介護で、保谷と新島を行ったり来たりの生活です。芸能界の夢叶わず、島流し基(もとい)島に嫁入りしたワタシは、富田真由となり、とみたまショーを主催して自己顕示欲を満たすこと30余年。くさやのビキニで踊ったり、手作り楽器のエアオーケストラを指揮したり、小学校の体育館で2時間のミュージカルの主役をやったり、そのやりたい放題は51歳の時テレビで紹介されました。

やりたいことをやってきたので、後悔なく今を生きる。お祭りで若いイケメンを侍らせパフォーマンスし、盛り上がる一体感。最高の醍醐味。夏には人魚の水着で海を泳ぎ、それもテレビに出て渡辺直美にコメントもらいました。夢はいろんな形で叶っていきます。

佐久間 のぞみ 37回 H組
(旧姓 蜂須賀)



在校時代のわたしのマイブーム・思い出
勉強を放ったらかして、月に一度は所沢へ足を運び、西武ライオンズの応援に励んでいました

現在、都内の小学校で教員をしています。

都の道徳教育研究会にて研鑽を積んでおります。勤務校に、何と49回生と74回生がおりまして、昨年度はその3名で一緒に同学年を担任いたしました。あまりの偶然に驚くとともに、「私の頃の武蔵はね～」と、自分達が在籍した頃についてお互いで話し合い、とても楽しく過ごしました。

学校現場はタブレット端末の導入など、新しいことが次々と入ってきて目まぐるしく、ついていくのがやっとですが、それでも今までの経験を活かせることもまだまだ多く、もう少し現場で役に立てることを模索していきたいと思っています。

高校在学中は成績も芳しくなく、地味に過ごしておりましたが、合唱部で3年間、先輩や後輩、同級生達と楽しく歌えたことはとても心に残っています。また、1年生の時の文化祭で、来てくれた小学生達と楽しく過ごせたことが、今の職に就いたきっかけとなりました。

更に、今でも時々あってお喋りに花を咲かせる友に恵まれたことも、大きな財産となりました。武蔵高校に在学できたことに心から感謝しております。

鳥海 明子 37回 H組
(旧姓 三宅)



在校時代のわたしのマイブーム・思い出
当時の(今も)マイブームは「どうしたらテニスが上手くなるか」です

「今も繋がってます」硬式テニス女子部に所属していた37H鳥海明子(旧姓三宅)です。卒業して40年。「女ラグビー部」と異名をとった硬テ女子。テニスだけでなく、筋トレやランニングに励み、泥と日焼けで真っ黒になりながらクレーコートで練習した日々が懐かしいです。仲間や先生と過ごした日々は、喜怒哀楽ありながら私たちを成長させ、困難に立ち向かう力となっています。

特に同期とは、数年前から年に1回会食するようになりました。きっかけは子供の高校の入学式で、ケイコに声を掛けられたこと。「ミケ～！」と久しぶりに聞く呼び名に耳を疑い、そこから硬テ女子同期に連絡を取り、同期会を催すことに。写真は2024年10月のものです(私は試合で残念ながら欠席)。集まれば話が尽きることなく、一気に昔に戻ったようです。毎年楽しみなイベントですが、ひとり連絡先がわからないメンバーがいました。しかし、この会報のお陰で繋がることができ、嬉しい驚きです。

今と40年前では高校生活も様変わりしたと思いますが、40年前の仲間は、いつまでも変わらないかけがえのない宝物です。

岩谷 祐治 37回 I組

在校時代のわたしのマイブーム・思い出
あの時はPL学園の甲子園での活躍に熱中していました

武蔵を卒業してから40年の月日が流れました。卒業後直ぐに都庁に就職した私は、幸いにも同級生と結婚し、双子の男子にも恵まれました。二人の子供も一人が昨年、もう一人が今年ようやく大学生となります。 子供が生まれるまでは、仕事と遊び(飲み)ばかりの生活でしたが、現在は体調等の影響もあり、とにかく家族のためだけに過ごす毎日です。

もうすぐ子育ても終了し、自分の定年も見えてきましたので、次のステップをどのようにすべきかを考慮しているところです。武蔵で育まれ、職場で鍛えられた「自由だけれど自律した大人」として、様々なことにチャレンジしていきたいと考えています。

木下 元 37回 I組



在校時代のわたしのマイブーム・思い出
テレビ大好き、ザ・ベストテンと、アメリカ横断ウルトラクイズは欠かさず見てました。それともう一つ、このころから高校野球狂です

「武蔵」を卒業し、大学では法学部に入りました。

弁護士になりたかったのですが、司法試験を一度も受験することなく挫折、地方公務員になりました。アラフォーの時に法科大学院に入学、念願の司法試験に挑戦しましたが、あえなく三振、弁護士の夢は、遠い彼方へ消えました。

今は、特別区の職員として、23特別区が被告となった訴訟に携わり、弁護士的な仕事に明け暮れています。これまで、23区の職員と出会う中で、多くの武蔵生(ほとんどが先輩か同級生)と出会いました。

優秀な武蔵生の皆さん、特別区で一緒に働きませんか？

同期会・クラス会・部活OBOG会を行いました

80歳を迎えて5年ぶりの傘寿クラス会

君島 恒之
(15回 B組)

15回B組 クラス会
(1962年度卒)

クラスの皆様のご協力で、2〜3年に1回集まっていました。しかしコロナ禍の影響で昨年、5年ぶりに集まることができました。こじんまりとした会場で貸し切りの為、気兼ねなく懇談することができました。丁度、80歳を迎える年と重なりました。

30歳ぐらいまでは、80歳と言えば相当の、お年寄りのイメージを持っていました。実際に迎えてみると皆様変わりなく、話が弾みました。高校時代の3年間と気持ちが変わりなく万年成年の感じを受けました。あっという間の3時間でした。人生100年時代、集まれる時には開催したいと思いました。



吉祥寺
YOSHIDAGOHAN
(ヨシダゴハン)にて

17回C組 喜寿クラス会

井出 浩夫
(17回 C組)
高橋 孝子
(旧姓 田辺／17回 C組)

17回C組 クラス会
(1964年度卒)

武蔵17C喜寿のクラス会を行いました。武蔵60号の記念すべき会報に投稿できることを非常に嬉しく思います。

奇しくも武蔵高校を卒業して60年目の令和6年6月25日に立川でコロナ禍でしばらくの間クラスができませんでしたが、全国より総勢22名のOB/OGが集まり17C喜寿のクラス会を行いました。

クラス会は全員の近況報告で始まり、その後プロジェクターを使い修学旅行のアルバム写真をスライド上映しました。映し出される61年前の姿に思い出がよみがえり、また担任であった石澤先生の写真もあり、あっという間の2時間でした。



喜寿のクラス会・立川にて

今後はメーリングリストを使いお互いの情報交換や、この指とまれ方式の小旅行や食事会等を企画していく事で散会しました。2次会ではコーヒー等を飲みながらクラス会で話し足りなかったのかトークに花が咲きました。その後また飲みに出かけるメンバーまたカラオケに行ったメンバー等久しぶりのクラス会でした。

35回B組 還暦クラス会

幹事 河上 毅
(35回 B組)

35回B組 クラス会
(1982年度卒)

ようやく日常が戻ってきたところで、もうなった・もうすぐ・まだ余裕の還暦クラス会を2024年6月に開きました。

卒業後初めて顔を合わせる参加者もありの、1・2次会合わせて出席者全20名、男女全員赤いチャンチャンコを着て短時間では終わらない近況スピーチを終了ベルを使って何とか宮地先生の元気な一言まで辿り着き、幹事代行から無事卒業時の本来の幹事へ引継ぎをして、いつも通りにぎやかに盛会にて終了しました。

次はいつやろうかな！



いつも通りにぎやかに、
還暦のクラス会

増田先生にお会いしたい!という思いから...

堀澤 早霧
(旧姓 石本／40回 B組)

40回B組 クラス会
(1987年度卒)

昨年、お盆直前の3連休の中日である2024年８月11日(日)の午後、40回生B組の同窓会が行われました。場所は、増田達男先生(化学)のお住まいの最寄り駅、多摩センター駅近く。昨夏は猛暑でしたが、その日は、またとりわけ暑い日でした。令和元年に開催された前回の同窓会以来、コロナ禍を経て5年ぶりの再会でした。

卒業以来初参加のメンバーもいましたが、皆口々に「増田先生にお会いしたくて！」を繰り返し、当時増田先生が作成してくださったアルバムを手に、昔話に花が咲きました。「今まで同窓会は渋ってきたけれど、来てよかった！また来る！」と打ち明けてくれたメンバーが複数いたことも嬉しく、次回開催＆参加を固く誓い合いました。



多摩センター駅にて、クラス会での集合写真

増田先生は、今は畑を楽しんでいらっしゃるそうで、お元気なご様子です。次回は、さらなるメンバー増大の開催を期待しています。最後になりましたが、今回も幹事グループの皆さん、本当にありがとうございます。

増田先生からのお便りは P.14へ

「お元気ですか」同窓生からのお便り



2011年から始めたフルマラソンは完走25回を数えました！

光合成研究45年

植物生化学者 **久堀 徹**　28回 C組（1975年度卒）

今から50年前、３年生の時に清水清先生の生物の授業で、すべての生物はDNAに記録されているATGCの４文字の組み合わせでプログラムされていることを学びました。クラブ活動では社会科研究会郷土班に所属し（同学年の男子部員は多羅尾光睦さん（前東京都副知事）と私の二人だけでした。生涯の伴侶もここで見つけました）、3年まで進路の定まっていなかった私でしたが、清水先生のこの授業に強い衝撃を受け、大学で生物学を学ぼうと決めました。狙っていた某一流国立大学には合格できず、早稲田大学教育学部生物学専修に入学しました。そして、野球の早慶戦、ラグビーの早明戦、箱根駅伝（瀬古利彦さんは学部同期です）と応援に事欠かない楽しい学生生活を送る一方で、卒業研究、大学院で、ライフワークとなった光合成のエネルギー変換システムの研究を行いました。博士修了後は、早稲田大助手、横浜市立大助手を経て、1995年に東京工業大学資源化学研究所の助教授に着任しました。

ATP合成酵素が回転して働くことを一分子の直接観察で明らかにして当時のノーベル化学賞をサポートした吉田賢右教授が主宰する研究室に加わり、ここで独自の世界を生み出すことを目指して、光合成で働く酵素の制御機構を研究しました。以来、28年、教授として定年を迎えるまで東工大で研究を続け、育てた修士、博士課程の学生は110人を超えました。幸い、研究業績を評価していただき、2023年に東京都から技術振興功労で表彰され、2024年に日本植物生理学会の学会賞を頂戴しました。

今は、相模湾越しに富士山が望める風光明媚な葉山の高台に本部がある国立大学法人総合研究大学院大学の監事をするかたわら、ノーベル生理学医学賞を受賞した大隅良典博士が2017年に設立した大隅基礎科学創成財団の役員として、基礎科学研究をサポートする活動のお手伝いをしています。総合研究大学院大学は日本各地にある文部科学省の研究機関での博士課程教育を担っており、私も将来を担う研究者の育成に貢献しようと決意を新たにしているところです。

詳しくはWebで「久堀」と検索してください（笑）。

在校時代のわたしのマイブーム・思い出

一眼レフが欲しくて、新宿の高層ビル建築現場（KDDIビル）でアルバイトしました。怖かったです。


病院前 正面写真

臓器以外の専門性

臨床医 **金子 昌裕**　57回 B組（2004年度卒）

57回生のみなさまお元気でしょうか。昨年の中村さん含め皆紆余曲折しているなーと思いながら毎年楽しくこの会報を拝見しています。私の高校時代は受験勉強を1年次から異常にやって周囲から浮きながらも、それを受け入れてくれた山岳部や陸上部、図書委員会の面々に支えられて、本当に幸せな3年間だったなと思います。卒業当時は競馬の調教師（獣医）を目指して東大に入ったものの、入学後急激に興味を失って生物学者を目指して農学部に進学、しかし研究職のキャリアに「なんか違う」と感じて神戸大の医学部へ編入、その後はおおむねブレることなく今まで医師としてのキャリアを歩んでいます。暖かく見守ってくれた両親や友人へ本当に感謝しています。

さて、今私は総合診療専門医と家庭医療専門医という2つの専門医の資格をもって、垂水病院という依存症の専門病院で働いています。今回は前者についてご紹介します。総合診療は最近始まった国主導の新しい資格、家庭医療は40年ほど前からの学会主導の資格という違いがありますが、どちらも「かかりつけ医」能力を高める研修（総合は3年、家庭は4年以上）に重点を置いたのが特徴です。「かかりつけ医」能力とはACCPAという頭文字であらわされる、**Accessibility**（近接性、時間・地理・人間的に受診しやすい）、**Comprehensiveness**（包括性、新生児から高齢者まで、外傷から緩和医療まで対応）、**Coordination**（協調性、院内外の医療介護行政資源と協力）、**Continuity**（継続性、救急から在宅ケアまでどんな場面にも対応）、**Accountability**（責任性、説明責任と自己研鑽）です。高度先進医療が溢れる現代、健康問題で悩むことはないでしょうか？私たちは市民と医療の間の溝を埋める役割を専門性として重視していますので、ワクチンどうしたらいいの？こんな症状どこに相談すべき？介護問題で疲れちゃって、この治療続けていいのかな？そんな様々な悩みがあるときは総合診療・家庭医療専門医へご相談ください。

総診探す
総合診療専門医検索

家庭医探す
家庭医検索

在校時代のわたしのマイブーム・思い出

ゲーム由来で競馬が好きになり、海外のレースをみたりしていました。

東京水のふるさと「水道水源林」で働く

村木 瑞穂
（旧姓 小野）
41回 C組
（1988年度卒）

日本で暮らしていると、蛇口をひねったら水が出てくるのは「あたりまえ」なのですが、その「あたりまえ」の水道水をずーっと遡っていくと、一番奥に「水道水源林」があるってご存じですか？


東京都の林業技術職員として勤務

きっかけは武蔵高校山岳部!?

昭和の終わりに都立武蔵高校に入学した私は、部活の新入生勧誘に乗り遅れて、ひとりで悩んでいました。中学まではバスケットボールに夢中でしたが、身長もシュート力も伸び悩み、違うスポーツを探していました。初心者でもついていける部活がなかなか見つからず、少し焦っていたそんな時、隣のクラスとの合同授業の自己紹介で、小柄なかわいい女子が「山岳部に入りました、興味があればぜひ一緒に山に登りましょう！」と言うのを聞いたのです。

早速、山岳部に入部して、毎日、友人を背負った階段昇降や小金井公園までのランニングなど、地味な練習に明け暮れていました。しかし、１年生の夏には、バスケの体力と登山の体力はまるで違って、初心者の私には全くついていけないことがわかり、あっさりと「最弱部員」の座に収まり、そのまま３年間過ごしました。

そんな私ですが、進路を考える時には、山岳部で歩いた山にたくさん生えている「木」について学んでみようと思い、信州大学の森林科学科に入りました。そしてその流れで東京都の林業技術職員として、水道水源林で働き始めました。

水道水源林って何？？



少し、堅い話になりますが、東京都の飲み水は、そのほとんどが河川の水です。利根川荒川水系が約８割、多摩川水系が約２割です。その多摩川の上流には水道専用ダムである小河内貯水池（通称：奥多摩湖）があり、その上流に広がる森林が水道水源林です。面積は23区の約４割（約25,00ha）と広大で、水源かん養や土砂流出防止などの機能の維持向上を目的として管理しています。

歴史の話になりますが、多摩川の上流の森林は、江戸時代にはその多くが徳川幕府の領地であり、おおむね良好な森林でした。しかし、明治時代に入って、焼き畑や乱伐などにより最上流部で森林の荒廃が進んだため、明治34年（1901年）、当時の東京府が水道水源林の管理に着手し、以来120年以上に渡って水源林を管理しています。

気が付けば、水道水源林で30年！

働き始めた頃は、間伐などの森林保全作業の設計を担当し、その後、シカやクマなどの被害対策、ハイキングコースの整備、水源林のPRなど様々な仕事をしてきました。気が付けば水道水源林120年歴史のうち、4分の１にあたる約30年になりました。

森林を健康な状態で管理することは、生物多様性や地球温暖化など、長期的な社会課題の解決にもつながると思っています。これからも、皆さんの飲み水の最初の一滴がうまれる水道水源林を大切に守っていきます。


笠取山付近（大正末期）


笠取山付近（最近）

水道水源林
ポータルサイト
みずふる

東京水のふるさと水道水源林に少しでも興味を持っていただけた方は、ぜひ、こちらのサイトを見に来てください。

在校時代のわたしのマイブーム・思い出

洋服作りとブルーのヤマハ・チャンプ（原付）

武蔵の山小屋……大菩薩ヒュッテ

公式ホームページ

『大菩薩ヒュッテ』は、同窓生ならどなたでも利用できる施設です



[ご利用について]

利用期間：5月連休～11月第1週、原則 土・日、または日帰り
利用時間：土曜日15:00～日曜日12:00頃まで
利用料金：一人一泊 ¥1,000(おもに暖房・プロパン等燃料代)

LINE公式アカウントを取得しました!
ヒュッテや周辺でのイベント紹介などヒュッテHP更新時にはこちらでアナウンスしますので右から友だち登録をよろしくお願いします。

都立武蔵高校 大菩薩ヒュッテ公式ページ
http://musashi-hutte.com/

LINE登録用 QRコード
LINE ID @451iwwcu


ヒュッテ正面と水力発電小屋



大菩薩峠での集合写真


ヒュッテ南面とソーラーパネル


薪ストーブ

2024年度は『大菩薩ジオツアー』『ヒュッテをベースに山登り』というイベントを開催しました。参加者の声を以下に抜粋します。

『大菩薩ジオツアー』に参加して (24.11/3,4)

PTA副会長 **滝井 ひかる**


大菩薩峠の上で地層をよむ

かねてより山岳部の息子が在学中の内に、一緒にヒュッテへ行けたらと思っていました。また、PTA副会長在任期間に行けるチャンス!と思い申し込みました。

まずは昼食後パワーポイントを使ってレクチャーを受け、そのあと大菩薩峠までトレッキングをしながら実際の岩や地形を見ると、なるほどと腑に落ちました。さらに夕食後も薪ストーブを囲んで、プリント資料を見ながらのレクチャー。実地のあとに聴くとますます頭に染み込みました。Eテレ高校講座 地学基礎でおなじみの久田教授のレクチャーは、文系で門外漢の私にもわかりやすく、また地学分野を志す学生の質問には専門的に答えてくださり幅広く学べます。地学は地震や鉱物、水など生活に密接な関わりがあることを思い出させてくれました。小学生向けの資料も用意してくださっていたので家族で参加しても楽しめそうです。

初めて訪れたヒュッテは武蔵の歴史を感じさせる山小屋。代々管理を受け継がれてきた山岳部OBの皆様には感謝の念が絶えません。自然の中の山小屋なのでホテルのような潔癖さをもとめると、寒さとか虫とか小動物とか気になる方がいらっしゃるかもしれません。サバイバル体験と思って楽しみましょう♪ 夜は敷布団と掛毛布にさらに寝袋をお借りしたので快適にぐっすり眠れました(寝袋の持参をおすすめします)。皆でわいわい言いながら作ったカレーやサラダも、空気の美味しさとトレッキング後のはらぺコがスパイスになり、もりもりスプーンが進みました。

翌朝は日の出を見るために息子と二人でまた大菩薩峠へ。眼下に広がる雲海と朝日と富士山が神々しい眺望でした。高校生ともなると一緒に出かけることも少なくなってくるので、受験や巣立ちの前にこのような親子の時間を持てて本当に幸せでした(私は)。家族で、友達同士で参加してもよし、私達のように母子、父子で参加するのもオススメです。

『ヒュッテをベースに山登り』参加者皆さまの声です♪ (24.10/13,14)

37回 Kさん Ladies & 隊長、大菩薩では大変お世話になりました。楽しかったです～ありがとうございました！現実に戻るともう遠い昔の事のようです(涙)。

40回生＆PTAのSさん 夢の様な時間で時々思い出してしまう今日一日でした～。迷い続けて1年、行って良かったです。ヒュッテは想像よりずっと快適、工夫されていて頭が下がります！ヒュッテを通じての人のつながりが多くあり本当に素敵です！武蔵高校の良さを今さらながら感じました。今のところ筋肉痛はそれ程なく、山歩きに少し慣れて行ければと思います。

25回 Mさん 武蔵高校の卒業生としてヒュッテが利用出来た事幸せに思います。山岳部OBのお話より水の確保やヒュッテ維持の大変さを知り、多くの方々の力で今のヒュッテがある事を実感しました。お天気にも恵まれ富士山の景色も素晴らしかったです。鹿の鳴き声、印象的でした。帰りに1時間弱でしたが、やまと天目山温泉に立ち寄りました。アルカリ性の温泉で、疲れが取れた感じでした。また皆さんとご一緒出来ると良いですね。

PTAのAさん 初めて登山靴を履いての山登り。足元しか見れない道中でも、安心して歩くことができ、また素晴らしい景色を堪能できたのは、隊長がサポートしてくださったおかげです。ヒュッテはとても居心地よく、山岳部の方々のご尽力あってこそと感じました。皆さま、お疲れさまでした！登山だけでなく、ご飯作り、おしゃべり、お布団並べて眠ったこと。ご一緒させていただきとても楽しかったです！

2025年度も『山登り企画』『ジオツアー』を実施します

ご興味ある方は大菩薩ヒュッテ公式ホームページを確認の上、そちらの「問い合わせ先」よりご連絡ください!

表紙によせて

モンテルキの風

(第71回春の院展(2016年)出品)

作者紹介 **井上 耐子**さん

(現姓 三浦)

16回 F組 (1963年度卒)



今から12年前、私の故郷香川県丸亀市の塩飽諸島で、アートによる島の活性化と若きアーティストの活動支援、文化芸術振興を目的とした、ホットサンダルプロジェクトが発足しました。プロジェクトは、その年の夏から毎年、美術大学の学生に呼びかけて参加者を募集し、夏休みの間、島の小学校の体育館をアトリエとして作品を制作するものです。

プロジェクトの最後には参加者一人ひとりが、自分の作品の前でプレゼンテーションを行い、その後に私が講評を行う形で数年前まで取り組んでまいりました。参加した学生の作品は、自然に包まれた島の美しさや豊かさを絵画化した力作ばかりで、私自身も久しぶりの故郷はとても新鮮で幼き頃を思い出させてくれました。瀬戸内海では都会では決して出会えない、一瞬、一瞬移ろいゆく色彩の輝きが溢れ磯の香に包まれ、空と海と大地が溶け合い一つになる時があります。静かに優しく寄せてくる波の音、浜辺に咲き乱れる草花や島の風に舞う網。人体をテーマとしてこれまで描き続けてきた私にとって、長い間求め続けてきた絵画空間の原風景は私の故郷だったのだと思いました。

その後数年間、海外での取材が続き、特にイタリアで出会った色や形は、絵画の持つ力、生命力、永遠性を感じさせてくれました。中でも、アレッツォとサンセポルクロの間にある小さな村、モンテルキのマドンナ・デル・タルト美術館には、ピエロ・デッラ・フランチェスカが描いた美しいフレスコ画「出産の聖母」があります。交通の便がないことが大変でしたが、数年間挑戦して、やっと出会えたマドンナは清らかで素朴で美しく、心打たれた作品でした。「モンテルキの風」はマドンナと出会えた喜びを、瀬戸内海の優しく豊かな絵画世界の中に融合し表現したいと取り組んだ作品です。

これからも人体を中心に生命そのものを追求しながら、やわらかな光満ちあふれた空間に描き続けてまいりたいと思っています。

《略歴・画歴 井上 耐子 (香川県出身)》

1964年 東京都立武蔵高等学校卒業
1968年 東京芸術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
1967~70年 法隆寺金堂壁画再現模写
1968年 日本美術院展初入選(以後、春の院展および院展に出品)
1970年 東京芸術大学大学院美術研究科保存修復技術(日本画)修了
安宅賞受賞、修了作品同大学買上
1971年 日本美術院 院友推挙
1973~76年 国宝東寺伝真言院曼陀羅再現模写(胎蔵界曼陀羅図模写)
1976~77年 文化庁模写事業、国宝釈迦金棺出現図模写
1979年 第5回山種美術館賞展(山種美術館)
1979年 渡仏、ルーブル美術館にてフラ・アンジェリコ作「天使像」模写
1982~83年 文化庁模写事業、国宝山水屏風模写
1987年 日本美術院特待推挙
1994年 武蔵野美術大学教授
2014年 井上耐子自選展「時空を越えて」(武蔵野美術大学美術館)
2016年 武蔵野美術大学定年退職
2020年 香川県立東山魁夷せとうち美術館開館15周年記念展
「いにしえの美にまなぶー古画のうつしと日本の美」
現在 武蔵野美術大学名誉教授、日本美術院特待

主なパブリックコレクション

東京芸術大学美術館、文化庁
香川県立ミュージアム、東京家政学院大学
LRMF(フランス博物館群研究所、パリ、フランス)
LRMH(歴史記念物研究所、パリ、フランス)
武蔵野美術大学美術館、白百合女子大学、その他

在校時代のわたしのマイブーム・思い出

豊かであたたかく、独自の考えはしっかり
大切にもっていたクラス(F組)だったと思う

卒業同窓生総数26,799名 [2024年3月末現在]

内不明・物故等 11,509名

同窓会公式ページのご案内



同窓会公式ページでは、同窓会活動の活性化を推進するためホームページを運営しています。本会報に載せ切れなかった、多くの卒業生や教職員からの「お便り」や「卒業後の活躍」、「クラス会・同期会・OBOG会」の告知や開催レポートを盛り沢山に掲載をしています。

「みんなどうしているかな?」と思う日に、仲間をつなぎ・世代間をつなぐポータルサイトになることを願って運営をしています。同期・同級の懐かしい顔ぶれもいるのではないでしょうか。

オンライン上での会員情報の変更や、ホームページでのクラス会・同期会の開催告知なども行えますので、どうぞご活用ください。

都立武蔵 同窓会 検索

https://musashi-dosokai.com/